子育てチャンネル

教える難しさと楽しさ

人に何かを教えるということは、教える側はその人よりそのことについて知識を持っていなければならない。何を尋ねられても答えられる豊富な引き出しと余裕がないと、相手に不安を抱かせてしまうことになるだろう。

その人に合った理解しやすい言葉や態度、例えや言い回しなど、工夫できることはたくさんあって、どんなにたくさんの言葉をかけてもたったひとつの平易な言葉で相手が〝ストン〟と理解することもあるから、どう伝えればいいかを常に考えている。

もちろん、学年によっても、また障害によっても、個性によっても理解力は千差万別で、つくづく教えることは難しいと思う。と同時に、できた時にはこの上なくうれしい時間となる。

跳び箱で例えると、40～50年前なら「走って、踏み切って跳びなさい」と教えられたような気がするが、今の仕事では、視覚、聴覚からも分かるように、踏み切る位置や手の着く位置に印をつけ、踏み切った時の音も聞いてもらって、正しい跳び方を跳んで見せる。

目で見た動きを自分の体に置き換えて同じように動かすことはとても上級のテクニックなので、何度も繰り返すことが大切になる。

教える側も教えられる側も根気のいる作業になるが、継続しているうちに、ふっと素晴らしい跳び方をすることがある。そうなれば、先は見えてきて、それは跳んでいる本人にも希望となり努力する力となって楽しくなり、練習したくてたまらなくなる。

覚えることの第一歩に立ち会えることは、とても貴重な瞬間だ。家庭では、勉強をはじめ、日常生活のたくさんの事を子どもに教えなければならないので、ついつい声が大きくなることもあるかもしれない。でも伝え方はひとつではなく、四方八方の方向からあると思うと、気が楽になる。

どの入り口から入っていけばたどり着けるのかを考える発想も必要になる。

大人も子どもも一生のうちにたくさんの教えてもらう人と出会い、また自分も教える立場となることもあるだろう。教師と生徒、先輩と後輩、上司と部下、そして一番の基本となる親と子。出会えたことに感謝して、日々自分を磨かなければ、と改めて心に刻んだ。

旭川ＴＡＧスポーツクラブ

大浦厚子

大浦厚子さん（旭川ＴＡＧスポーツクラブ指導主任）は、幼児センターで親子運動あそびの講師を担当しています。

年１回、幼児とパパ、ママのための親子運動講座です。今年は５月11日、春の参観日に開きました。

今回は４歳児親子の運動教室でした。ハイタッチ、股トンネルくぐりなど、道具を使わなくても簡単に親子スキンシップできる運動あそびがいっぱい。特にお子さんが頑張らなくても親子の触れ合いと運動につながります。次回は11月、家族運動会に来てくれます。一緒にご参加ください。